

基本理念

目的（存在理由）

社会への貢献

わたしたちは
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、
よって社会に貢献することを目的とします。

基本的価値観（不変の主義）

1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々*に対し、
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第45期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）
年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度（当期）における日本経済は、経済政策
や堅調な米国経済の影響を受け景気は順調に回復しつつ
あり、消費者物価も徐々に上昇するなどデフレからの脱却も
進んできました。一方で、円安による輸入資材の価格上昇
やエネルギー価格の高騰によるコスト増加については、各
種製品やサービスの価格に転嫁されるなど、それらの影響
が顕在化してきています。また、消費税改正に伴う消費の
減速も懸念され、楽観視はできない状況が続いています。

ユニットハウス業界においては、全国的に公共工事を含
む建設着工高が増加するなど需要が高まっており、さらに、

今後は本格化し始めた東北地方における復興工事や、
2020年に開催が決定した東京オリンピックに向けた各種
工事の増加により、一層需要が高まることが期待されてい
ます。ユニット工法は、工場内で製品の大部分を製造する
ことから、現在、社会問題となっている建設現場の労働者
不足解消に貢献できると考えています。

このような事業環境のもと、当社グループは工場を新設
するなど生産設備を強化し、需要増加に対応できる体制を
整えています。また、展示販売場やトランクルーム等の販売
ネットワーク拡充についても、計画通り継続して取り組んで
います。

当社のポリシーである「必要な時に必要なスペースを必
要な設備とともに提供する」を実践することで、当社のユ
ニットハウスは、従来の仮設建設市場のみならず、ここ数年
来開拓を続けてきた本建築市場、不動産市場においても
その優位性を十分発揮できるものと確信しています。引き
続き、“建築の工業化”という当社のコア技術を高めていく
ことで新たな市場の開拓を図っていく考えです。

今後とも創業当時から受け継がれてきたフロンティアスピ
リッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を目指
し、失敗を恐れず情熱をもって事業を展開していきます。

当期の業績について

ユニットハウスのレンタルは、公共投資予算の増加に加
え、民間の設備投資の増加により、全国的に出荷が好調
に推移しました。また、空調その他電気設備と配線をユニッ

トハウスと一体化させた配電システムによってユニットハウ
スの付加価値を高め、引き続き受注拡大に努めました。一
方で、トランクルームを新たに48店舗出店し、期末店舗数
は196店舗となりました。また、当社直営の展示場を17店
舗新規出店し、期末店舗数は122店舗と販売チャネルの
拡充に努め、ほぼ計画通りに進捗しました。

これらに加えて、当期、新設したつくば工場が本格稼働
を開始したことで供給体制をさらに強化できました。

上記の結果、当期の連結売上高は26,747百万円（前
年同期比11.0%増）となりました。

その一方で、利益面においては、店舗網拡大やレンタル
資産投入など、積極的な投資による費用増加や、資材や
エネルギー価格などの上昇に伴う原価上昇などの影響もあ
り、営業利益は3,322百万円（前年同期比1.2%減）、経
常利益は3,244百万円（前年同期比5.6%減）、当期純利
益は2,051百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

当社は今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を
活かし、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業
績の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指
導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成26年6月

代表取締役社長 長妻貴嗣